

### 38. 整形外科疾患と肺炎

公立みつぎ総合病院 リハビリテーション部

○東舎 奈央, 倉永 史俊, 安田 美智子, 八田 理絵

大腿骨頸部骨折など整形外科疾患の中には合併症として肺炎を起こしうることが広く知られている。しかし、本来整形外科疾患と肺炎に神経学的な因果関係はなく、どういう患者が肺炎を発症しやすいのか、またなぜ骨折後に肺炎を起こすのかを検討した文献は多くない。

そこで、昨年度当院整形外科に入院しリハビリ処方された 177 名(男性 74 名, 女性 103 名, 平均年齢  $72.9 \pm 17.5$  歳, 12~97 歳)を対象に、電子カルテ情報をもとにどのような因子が肺炎発症に関わっているのか検討した。

まず、疾患部位別に①大腿骨頸部骨折②圧迫骨折③脊椎④上肢⑤下肢(大腿骨頸部骨折以外)に分け、肺炎症状の有無について調べた。次に、肺炎症状があったものに関しては既往歴・食事形態・嚥下機能検査の有無などについても調べた。

結果、肺炎症状のあったものは①6/58 名(11.3%)②1/27 名(3.7%)③2/20(10%)④0/25 名⑤0/47 名で合計 9/177 名(5%)であった。9 名の内訳は男性 3 名, 女性 6 名, 平均年齢  $80.8 \pm 8.7$  歳, 61~94 歳であった。9 名の主な既往歴は脳出血 2 名, 脳梗塞 1 名, 嚥下障害(反回神経麻痺)1 名であった。9 名のうち嚥下機能検査を実施した患者は 4 名で、4 名とも食事形態を嚥下食に変更されていた。また、嚥下機能検査を実施していない 5 名についても食事形態を変更したものが 2 名, 入院時より嚥下食を摂取していたものが 1 名で、9 名中 8 名に嚥下障害が認められた。また、9 名のうち言語聴覚士(以下 ST)が介入していたのは 1 名のみであった。

以上の結果から、整形外科疾患の合併症である肺炎発症には嚥下障害が深く関与しており、嚥下障害のある患者が①大腿骨頸部骨折②圧迫骨折③脊椎など長期臥床を要する疾患にて入院した場合に肺炎のリスクが高くなると考えられる。

発表では肺炎発症の機序について若干の考察を加えて報告したい。